

教職ポートフォリオ

子ども教育学部 子ども教育学科	
学籍番号	氏名

田園調布学園大学 教職課程委員会

〔2025 年 3 月改訂〕

目 次

1. 教職ポートフォリオの構成と利用法	1
2. 自分自身について	3
3. 教職・保育職に必要な資質・能力	5
4. 資質・能力の確認と自己評価	6
5. 履修状況チェックシート	14
6. 個人学習・実践記録	16
7. 「保育・教職実践演習(幼・小)」の記録	20

1. 教職ポートフォリオの構成と利用法

(1)「教職ポートフォリオ」とは

・2006(平成 18)年 7 月の文部科学省中央教育審議会による「今後の教員養成・免許制度の在り方について」という提言を受けて、全国の教員養成課程をもつ大学・短大等に「教職実践演習」という必修科目が設置されました。それに伴い、2010(平成 22)年度入学生から、学生の教職課程における履修状況を記入し、その成果を確認する「履修カルテ」の作成が義務付けられました。

・本学では、教職課程および保育士養成課程に学ぶ学生みなさんが、教師・保育者として必要な資質・能力を確実に身につけていくことに役立てていただくために、この「履修カルテ」を「教職ポートフォリオ」として開発・作成しました。

(2)「教職ポートフォリオ」の目的

・この「教職ポートフォリオ」は、教職課程・保育士養成課程を履修している学生が、学年ごとに教職・保育職に必要な資質・能力の定着状況について自己評価を行い、自らの課題と課題達成のための自主的な学習活動・学習内容について整理することで、自分の成長に役立てるために作成していくものです。自分の長所や短所に気づき、成長を記録し振り返ることで教職や保育職に対する気づきや学びが促されます。

・本学科で教職課程および保育士養成課程を履修する学生全員が、4年次後期に「保育・教職実践演習(幼・小)」を履修します。「教職ポートフォリオ」は、この「保育・教職実践演習(幼・小)」の授業で使用します。

それまで絶対になくさないでください。「教職ポートフォリオ」がない場合は、資格・免許を申請できなくなります。

(3)「教職ポートフォリオ」の構成と利用方法

教職ポートフォリオは、①教職ポートフォリオの構成と利用法、②自分自身について、③教職・保育職に必要な資質・能力、④資質・能力の確認と自己評価、⑤履修状況チェックシート、⑥個人学習・実践記録、⑦保育・教育実践演習(幼・小)の記録から構成されています。

① 自分自身について

このファイルを受け取った時点で、これまでの学習経験と実習に対する期待や不安を書いてください。また、教師・保育者として必要な資質や能力について考えてみましょう。

② 教職・保育職に必要な資質・能力

教職・保育職に必要な資質・能力について、建学の精神「捨我精進」に基づいて、その内容を示しています。全部で4つの分野(A、B、C、D)があり、計76項目で構成されています。

③ 資質・能力の確認と自己評価

教職課程・保育士養成課程での学習や実習での実践を、各年度に振り返ります。教職・保育職に必要な資質・能力を確認して自己評価を行います。左ページに書かれている A から D までのそれぞれの資質・能力の具体的な内容に照らして、右ページに自身の課題と、その課題にアプローチするための自主的な学習活動、学習内容を記します。

前年度までの自己評価と現在の評価を比較し、自己の成長や認識の変化について確認するようにしましょう。前年度までの課題と自主的な学習活動、学習内容と比較することで、継続する課題や新たに生じた課題について自覚することができます。

④ 履修状況チェックシート

幼稚園教諭免許状、小学校教諭免許状、保育士資格を取得するために必要な科目の履修状況を確認して記録します。各学年・学期の初めに履修登録が終わったら、その学年で履修する科目のセルに「○」を付けましょう。学期終了後に単位修得済になったら「◎」に書き換えます。

⑤ 個人学習・実践記録

学年ごとに、教職・保育職に関する実践的な学習や体験(学校見学、保育ボランティア、大学祭での研究発表など)について記入します。絵や写真、表など、その事実がわかる資料を貼ることも可能です。

⑥ 「保育・教職実践演習(幼・小)」の記録

4年次後期に履修する「保育・教職実践演習(幼・小)」で活用し記録と振り返りを行います。

2. 自分自身について

記入日： 年 月 日 (曜日)

(1)「教職・保育職を志望する動機」を書いてください。

(2)あなたの「理想とする教師・保育者像」、またはこれまでに出会った尊敬する教師・保育者について書いてください。

(3)これまでに子どもに関わった経験(職業体験、ボランティア等)について書いてください。

(4)実習への期待や不安について書いてください。 ※適宜記入日を追加すること。

(5)教師・保育者として必要な資質や能力について考えてみましょう。

3. 教職・保育職に必要な資質・能力

＜建学の精神:「捨我精進」＞

考えよう。自分のために何ができるかではなく、
 他人^{ひと}のために何ができるかを。

A 教職・保育職に対する理解と基礎知識をもとう 1 基本的姿勢 2 基礎知識 3 健康と安全 4 教育・保育の理念	B 子どもが何を求めているかを理解しよう 1 子どもへの気づき 2 個への対応 3 集団への対応
学習や実践の振り返り	
C 他者と連携する協調性を身につけよう 1 自己認識 2 気配り 3 コミュニケーション 4 社会性	D 子どもの主体性を伸ばす指導ができるようになろう 1 求められる応答性 2 指導計画 3 子どもの興味・関心を活かした指導 4 情報の収集と活用 5 省察

4.資質・能力の確認と自己評価

＜A 教職・保育職に対する理解と基礎知識を持とう＞

A-1 基本的姿勢

- (1)すべての子どもに対し、愛情を持って、分け隔てなく接することができる。
- (2)提出物(レポートや報告書など)の期限や相手との約束の時間を守ることができる。
- (3)挨拶を忘れず、明るい態度で他者と接することができる。
- (4)自分の心と身体の健康を維持・管理できる。

A-2 基礎知識

- (1)教育・保育の歴史に関する基礎的知識、幼児教育・保育の思想における主要な人物や 基本的概念について、実際の教育及び学校との関わりに留意して述べることができる。
- (2)教職・保育職の社会的意義を理解し、今日の教員に求められる倫理や資質・能力について、整理して述べるができる。
- (3)教育・保育に関する制度や仕組みの概要を整理して述べるができる。
- (4)五つの領域と小学校の各教科について、それぞれのねらい及び内容を両者のつながりに留意して述べるができる。
- (5)実習先の教育・保育目標や教育・保育方針を整理して述べるができる。
- (6)園、学校、施設が、家庭や地域と連携・交流する活動の意義と、教職・保育職としての基本的な役割を説明できる。

A-3 健康と安全

- (1)子どもの心と身体の健康を維持・促進するために必要な事項を整理して述べるができる。
- (2)子どもの心と身体の健康を維持・促進するための活動を計画し、実施することができる。
- (3)子どもの生命の安全を確保するために必要な事項を整理して述べるができる。

A-4 教育・保育の理念

- (1)『幼稚園教育要領』、『保育所保育指針』の「総則」、『小学校学習指導要領』の「前文」及び「総則」に記載されている内容を整理して述べるができる。また、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』の内容についても知っている。
- (2)教育・保育における環境の重要性について、適切に説明できる。
- (3)「遊びを通しての総合的な指導」、「主体的・対話的で深い学び」に関する基本的な内容を整理して述べるができる。
- (4)教育課程・保育課程の編成のプロセスを整理して述べるができる。
- (5)「人権」や「ノーマライゼーション」、「インクルージョン」などを、教育的な観点から整理して述べるができる。

1 年次	自身の課題	自主的な学習活動・学習内容
2 年次	自身の課題	自主的な学習活動・学習内容
3 年次	自身の課題	自主的な学習活動・学習内容
4 年次	自身の課題	自主的な学習活動・学習内容

＜B：子どもが何を求めているかを理解しよう＞

B-1 子どもへの気づき

- (1)子どもの成長・発達と、年齢や個人差に応じた適切な支援・指導ができる。
- (2)子ども一人ひとりの発達の過程に応じた課題に気づき、適切に対応することができる。
- (3)子どもの興味・関心のあることに気づき、適切に対応することができる。
- (4)子ども同士の間関係やその変化について気づき、適切に対応することができる。
- (5)子どもが互いのよさや違いを認め、協力し合う関係を築くための支援・指導ができる。
- (6)クラスや集団の雰囲気や教師・保育者が及ぼす影響について、整理して述べるができる。
- (7)子ども一人ひとりが安心して過ごせるように、集団を調整することができる。

B-2 個への対応

- (1)特別な配慮や支援を必要とする子どもへの保育・教育のあり方について多様な視点から考えることができる。
- (2)特別な配慮や支援を必要とする子どもの特性や求められる支援のあり方について整理して述べるができる。
- (3)家庭環境など養育上の問題を抱える子どもに関する基本的な対応方法について整理して述べるができる。
- (4)子どもの行動や問題の背後にどのような要因がありうるかを整理して述べるができる。
- (5)特別な配慮や支援を必要とする子どもに対して、適切な支援をすることができる。
- (6)子どもの行動や問題の背後の要因に配慮しながら、適切に支援・指導することができる。

B-3 集団への対応

- (1)クラス運営に必要な職務内容について、整理して述べるができる。
- (2)クラスを健全に運営するための方法や手立てについて整理して述べるができる。
- (3)子どもの実態に応じた適切な目標を設定し、見通しをもったクラス作りができる。
- (4)子ども一人ひとりの個性や長所を捉え、それらが活かされる集団作りやクラス運営を行うことができる。
- (5)子どもの個々の特性に配慮した集団作りやクラス作りができる。
- (6)家庭環境など養育上の問題を抱える子どもに対して、ケースに応じた支援・指導ができる。

1 年次	自身の課題	自主的な学習活動・学習内容
2 年次	自身の課題	自主的な学習活動・学習内容
3 年次	自身の課題	自主的な学習活動・学習内容
4 年次	自身の課題	自主的な学習活動・学習内容

< C 他者と連携する協調性を身につけよう >

C-1 自己認識

- (1)教職・保育職を自分の将来の職業として位置づけ、学業や実習に励むことができる。
- (2)学業や実習において、自らの発見や気づきを記録に残すことができる。

C-2 気配り

- (1)社会のルールやマナーを意識して、生活することができる。
- (2)初対面の人や目上の人と話す時や、改まった場面で、丁寧語や敬語を適切に使うことができる。
- (3)子どもの安全に気を配りながら、諸活動を支援・指導することができる。
- (4)子どもに対して、社会のルールやマナーを踏まえた支援・指導ができる。

C-3 コミュニケーション

- (1)学内外を問わず、活動の内容や場面に応じて、適切な服装ができる。
- (2)他者からの助言や指導に対して、素直に耳を傾け、適切に対応することができる。
- (3)困難や課題に直面したとき、他者からの助言・援助や指導を進んで求めることができる。
- (4)他者のよい点、優れた点について、適切にコメントすることができる。
- (5)話し合いや面談などの場面で、自らの考えや意見を整理して適切に述べることができる。

C-4 社会性

- (1)大学、サークル、実習などの場面で、教員や担当者に対して、報告・連絡・相談・確認を適切に行うことができる。
- (2)子ども一人ひとりの思いや言葉に共感的に耳を傾け、あたたかく接することができる。
- (3)必要に応じて、他者の仕事を進んで手伝うことができる。
- (4)指示を待つだけでなく、必要な事柄を自分で補いながら、与えられた役割や仕事に取り組むことができる。
- (5)他者から援助や助言を求められた時には、相手の立場や状況に配慮しながら適切に対応することができる。
- (6)自分の言動が他者に対してどのような影響を及ぼすかに配慮しながら活動や支援・指導をすることができる。
- (7)地域活動やボランティア活動などの意義を理解し、必要な時に進んで協力することができる。
- (8)他者と連携・協力して共通の課題に取り組み、自分に求められる役割を果たすことができる。

1 年次	自身の課題	自主的な学習活動・学習内容
2 年次	自身の課題	自主的な学習活動・学習内容
3 年次	自身の課題	自主的な学習活動・学習内容
4 年次	自身の課題	自主的な学習活動・学習内容

＜D： 子どもの主体性を伸ばす指導ができるようになろう＞

D-1 求められる応答性

- (1) 状況に応じて、子どもにわかりやすい言葉や表現を使って、説明や指示をすることができる。
- (2) 明るい表情と落ち着いた態度で、子どもたちが安心して自己表現できるようにかかわることができる。
- (3) 子どもが自分の思いを言葉にして伝えたり、相手の話を興味をもって聞いたりすることを促すような言葉かけや援助ができる。

D-2 指導計画

- (1) 教育課程・保育課程や子どもの姿に応じた指導計画や指導案を作成できる。
- (2) 子どもの実態や保育・教育のねらいに基づいて、教材研究を適切に行うことができる。
- (3) 作成した指導案に基づいて、適切に活動を行うことができる。
- (4) 実習園、実習校における環境や教材、情報機器を、状況に応じて適切に利用できる。
- (5) 予想できない状況が生じたとき、指導案を調整して柔軟に対処できる。
- (6) 教師・保育者や他の実習生の教育・保育実践場面を観察する際に必要な視点を、整理して述べることができる。

D-3 子どもの興味・関心を活かした指導

- (1) 指導計画や指導案を作成する際の手順と方法を説明することができる。
- (2) 子どもの反応や意見および、興味・関心を、指導計画や指導案に反映できる。
- (3) 子どもの注意を喚起して、授業・活動に集中させることができる。
- (4) 子どもの興味・関心を惹きつけて、授業・活動への意欲を高めるために、自分の得意なことを活用することができる。
- (5) 子ども同士の協働的な学び合いの意義を、整理して述べることができる。

D-4 情報の収集と活用

- (1) 援助・指導のあり方や、教育・保育実践に関連する客観的な資料・情報を収集することができる。
- (2) 援助・指導のあり方や、教育・保育実践に関連する客観的な資料・情報を活用することができる。
- (3) 自らの教育・保育実践を反省的に振り返り、記録として残すことができる。

D-5 省察

- (1) 他者や自分の実践を振り返りながら、自分の課題を発見することができる。
- (2) 教育・保育実践の改善にあたって、何が必要かを整理して述べることができる。
- (3) 教育・保育に関する社会の出来事や問題について、情報を得ることに努め、自分なりの考えや意見をもつことができる。

1 年次	自身の課題	自主的な学習活動・学習内容
2 年次	自身の課題	自主的な学習活動・学習内容
3 年次	自身の課題	自主的な学習活動・学習内容
4 年次	自身の課題	自主的な学習活動・学習内容

5. 履修状況チェックシート

●必修 ■選択必修 ○選択

区分	科目名	小学校教諭	幼稚園教諭	保育士	配当年次	1年次	2年次	3年次	4年次
専門基礎科目	子ども理解の理論と方法		●	●	1通				
	保育・教育マインド実践講座	●	●	●	1通				
	保育原理			●	1前				
	教育の原理	●	●	●	1前				
	社会福祉概論			●	1前				
	子どもと音楽表現Ⅰ		●	●	1前				
	子どもと造形表現Ⅰ		●	●	1前				
	子ども家庭福祉論			●	1後				
	発達心理学	●	●	●	1後				
	子どもと音楽表現Ⅱ		●	●	1後				
	子どもと造形表現Ⅱ		●	●	1後				
	子どもと健康		●	●	1後				
	教職概論	●	●	●	2前				
	保育内容（健康）		●	●	2前				
	カウンセリング		●	●	2前				
	生活	■			2前				
	音楽	■			2前				
	図画工作	■			2前				
	体育	■			2前				
	子どもと人間関係		●	●	2前				
	子どもと言葉		●	●	2前				
	子どもと家族の心理学			●	2前				
	子どもの保健			●	2前				
	乳児保育Ⅰ			●	2前				
	社会的養護Ⅰ			●	2前				
	教育史	○	○		2前				
	国語	■			2前				
	カリキュラム論	●	●	●	2後				
	特別支援教育・保育論	●	●	●	2後				
	保育内容（人間関係）		●	●	2後				
	保育内容（言葉）		●	●	2後				
	子どもと環境		●	●	2後				
	子ども家庭支援論			●	2後				
	子どもの食と栄養			●	2後				
	国語科指導法	●			2後				
	生活科指導法	●			2後				
	音楽科指導法	●			2後				
	図画工作科指導法	●			2後				
	体育科指導法	●			2後				
	道德教育の理論と方法	●			2後				
	乳児保育Ⅱ			●	2後				

	科目名	小学校教諭	幼稚園教諭	保育士	配当年次	1年次	2年次	3年次	4年次
専門基礎科目	子どもの健康と安全			●	2 後				
	保育内容（環境）		●	●	3 前				
	保育内容（表現）		●	●	3 前				
	学校経営論	●	●		3 後				
	児童文化		●	●	3 後				
	教育・保育の方法及び技術（情報通信技術の活用含む）	●	●	●	3 後				
	教育相談	●	●		3 後				
	保育内容総論		●	●	3 後				
	社会	■			3 前				
	算数	■			3 前				
	理科	■			3 前				
	家庭	■			3 前				
	外国語（英語）	■			3 前				
	特別活動・総合的な学習の時間の指導法	●			3 前				
	社会的養護Ⅱ			●	3 前				
	子育て支援			●	3 前				
	社会科指導法	●			3 後				
	算数科指導法	●			3 後				
	理科指導法	●			3 後				
	家庭科指導法	●			3 後				
	外国語（英語）指導法	●			3 後				
	生徒指導・キャリア教育	●			3 後				
専門発展科目	幼稚園教育実習指導Ⅰ	●	●		2 通				
	保育所実習指導Ⅰ			●	2後3前				
	幼稚園教育実習Ⅰ	●	●		2 前				
	学校インターンシップ	○			2 前				
	保育所実習Ⅰ			●	2 後				
	施設実習指導Ⅰ			●	3 通				
	施設実習Ⅰ			●	3 前				
	子ども教育研究E（保護者支援・相談）			○	3 後				
	子ども教育研究F（教育・保育とメディア）			○	3 後				
	保育所実習指導Ⅱ			■	3後4前				
	施設実習指導Ⅱ			■	3後4前				
	保育所実習Ⅱ			■	3 後				
	施設実習Ⅱ			■	3 後				
	保育・教職実践演習（幼・小）	●	●	●	4 後				
	幼稚園教育実習指導Ⅱ		■		4 通				
	小学校教育実習指導	●	■		4 通				
	幼稚園教育実習Ⅱ		■		4 前				
	小学校教育実習A	■	■		4 前				
	小学校教育実習B	■			4 前				

6. 個人学習・実践記録

18

1 年次

2年次

3年次

4年次

7.「保育・教職実践演習(幼・小)」の記録 1

「保育・教職実践演習(幼・小)」の記録 2

「保育・教職実践演習(幼・小)」の記録 3

「保育・教職実践演習(幼・小)」の記録 4